

2018年11月29日(木)  
北日本新聞朝刊

# 中国から介護実習生

## 高岡の明寿会 北陸初 4人受け入れ

医療法人社団明寿会(高岡市太田桜谷)は、介護職の外国人技能実習生として、中国人女性4人を受け入れる。介護の実習生受け入れは北陸で初という。受け入れ窓口となる監理団体の明瑞協同組合(同市太田伊勢領)が28日、同組合で実習生を迎える入校式を行った。4人は年明けから、明寿会が運営する老人保健施設アルカディア氷見(氷見市鞍川)で働きながら技術を習得する。

外国人技能実習制度は、外国人が日本で技術や知識を習得し、自国で生かすのが目的。昨年11月、対象職種に人手不足が深刻な介護職が追加された。明寿会は不足する人材を

補うとともに、中国での事業展開に向け、日本式の介護を教える指導者となる人材を育成する。

入校式には陳丹丹さん(23)、張芸蓁さん(23)、胡瑶さん(24)が出席。3人とも中国の看護師の資格を持つ。陳



さんは日本の介護の印象について「先進的で環境がきれい」と語り、張さんは「以前に見学に来た時にノウハウにびっくりした。技術を学びたい」と話した。胡さんは「日本の介護からプラス面を学んで持ち帰りたい」と笑顔を見せた。帥薇さん(44)を加えた4人は1カ月間、同組合で生活や日本語、介護に関する講習を受けた後、アルカディア氷見での実習をスタートさせる。期間は3年間を予定。明寿会の福田英道理事長は「中国も医療と介護が必要な時代になってきている。将来は指導者として中国で頑張ってもらいたい」と話した。

来県した右から胡さん、張さん、陳さん

— 高岡市太田伊勢領